

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105623		
法人名	医療法人ももたろう整形外科医院		
事業所名	ももたろうの郷ひなた苑 A棟		
所在地	岡山県岡山市北区足守709		
自己評価作成日	平成23年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370105623&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成24年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

川や緑に囲まれた自然環境の下、ゆったりとした利用者さんに合わせた生活をして頂き、四季折々の行事を取り入れ外出の機会をもうけ社会交流を心掛けている。また、地域住民に開かれた施設作りのため町内の会議や地域の清掃に参加したり回覧板などお互いの情報を共有している。また、毎月ボランティアの方と音楽会を開き交流を設けている。勉強会においても定期的に開催しており、職員全員でよりよい介護サービスを提供していると共に医療面においても、母体施設が医療法人(整形外科)で他の病院との連携によりサポートも充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恵まれた自然環境の中にある一軒家で、看板が無いのと外観が自宅と一緒に、グループホームとは気付かず行き過ぎてしまうほど、地域に溶け込んでいる。近所には近水公園や小学校があり、常に子供達の声が聞こえ、気持ちも穏やかになる。近水公園に行くのに小学校の前を通るが、小学校には土俵や二宮金次郎の銅像があり、利用者の心を和ませる環境である。日中は施設を行っておらず、自由に出入りが出来る為、家族も行きやすい環境となっている。二つのユニットは、利用者・職員共々日頃より気軽に行き来が行われている。また母体が医療機関である為、医療面での安心が提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念が共有できるように見えるところに貼っている。朝礼時に毎日確認を行い、業務に取り掛かっている。また、定期的にカンファレンスで再確認し、職員間で話し合いを行っている場を設けている。	毎日朝礼時に申し送りを行った後、二つのユニットと一緒に理念と事業所の目標を確認している。目標は法人の理念を基に管理者が毎年考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買物に出かけ、地域の方と挨拶を交わしている。花の季節になると頂いたり、花の見学の誘いを受けるなど、近隣住民とのふれあいがある。また地域の行事などにも積極的に参加している。	山下町内会に属し、回覧板等でイベントを知り、毎年開催されている菊花展や雛飾りの見学に行っている。近所の小学校の運動会には席が設けられ見学に行っている。また中学校の職場体験も行われ、お礼の手紙が事業所内に貼られていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場において認知症についての実践や支援について説明をしているが、地域の人には、確立できておらず、今後の取り組みとしてやっていきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所の報告を行うと共に皆さんから、ご意見、ご要望を伺い改善について努力している。また、評価結果について報告している。取り組みについて、内容を報告している。	地域との関わりを大切に考えている為、運営推進会議は年7回実施することになっている。会議を開催する1ヶ月前に、日程と次回のテーマの案内を行い、地域包括支援センター、民生委員、愛育委員、町内会長等に参加してもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、包括支援センターの職員さんにも参加して頂き取り組みなど報告しています。市町村との連絡などわからないことは協力を得たいと思います。	市町村との連携が地域包括支援センターの方ほど行われていない。今後は民生委員や愛育委員を通じて、運営推進会議に出席してもらい、連携を図っていきたい。	今後は、市町村担当者の方にも運営推進会議に参加もらい、事業所の実情を理解してもらい協力関係が密になることを望みます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所時に事業所の基本的考えを伝え、ご家族にも方針を伝えている。スタッフ間での共有の場がもてるように身体拘束についての勉強会を定期的に行っている。	日中は施錠を行っておらず、自由に出入りができる。合同で2ヶ月に1回身体拘束に関する研修を行い、各々が気付きや課題のレポートを提出して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止についての会議を行い、自分たちの行為について問題ないか、事業所内で話し合いを行って防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の所、成年後見のケースはないが、制度の理解の為に勉強会を考えたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、丁寧に説明を行い、質問があれば丁寧に対応している。改定があれば、利用者に説明し、疑問点等があれば、十分な説明を行い理解をして頂けるように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や希望があればスタッフ間で共有し、対応が早期に出来るのであればすぐに対応できるように取り組んでいる。また、家族会などで報告したり、要望も伺い運営に反映できるように取り組んでいる。	12月に行うクリスマス会の後に1時間程度家族会を行い、状況報告や取り組み内容を報告し、質疑応答の時間を取っている。その際に出た意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	苑の全体ミーティングでは、職員の意見、要望を聞き、法人全体の会議時に代表者に提案している。また、日々の業務等についてもスタッフの意見を尊重し、運営に反映している。	日頃気付いたことを直ぐに管理者に報告したり、就業後に報告したりと、意見や提案を言いやすい環境である。また職員から出た意見は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力を認め、意欲向上に繋がっていけるように耳を傾けている。また、部外でのコミュニケーションを図る機会を設け、職場以外でも話ができるように声をかけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員内での研修会を随時行い、質の向上が図れるように取り組んでいる。また、職場外でも機会があれば参加できるように代表者に伝えて研究の場に多くのスタッフが参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの研修会があればスタッフに研修できる機会を設けて事業所以外の方と交流を深めサービスの質の向上を目指している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用の相談があれば、事前に面談させて頂き生活状態の把握に努めると共に、ご本人に会って本人の心身の状態、思いに耳を傾け、本人に安心感をもってもらえるように関係づくりに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時には、御家族のこれまでの苦労であったりサービス状況等、経緯を伺っている。事前にご家族の要望を伺い、入所に至るまでにも何度も話を伺い情報の収集に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人や御家族の思い、現在の状況を確認させて頂く中で、信頼関係をきづきながら必要とするサービスの支援を見極め、他の事業所のサービスに繋げる対応もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を大切に、今まで暮らした生活が継続できるように暮らしの中で共に協働作業を行い、助け合いながら、楽しく生活が出来るように声をかけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には、家族とゆっくりお茶を飲みながら団欒が出来るように支援している。また、生活の様子を随時報告すると共に1ヶ月の様子を毎月書面で報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんのお友達や、近所の方がいつでも訪問できるように声をかけてあげたり、出かけたりしています。	年賀状や旅行に行った際に購入したポストカードに、近況等を書く手伝いを行い、関係が途切れないように支援している。また自宅の状況が気になる利用者には自宅までドライブがてら出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士が関わりできる場面を提供して、関係づくりに努めている。また、皆さんと一緒に過ごせ孤立しないように、仲間に入りにくいときは仲介して、話の架け橋を支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、家族の了解の下、支援状況などの情報提供書を行っている。また、移られても様子を伺うなど家族との関係に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の気持ちを尊重し、ご本人が望まれる生活援助が出来るように、家族からの情報または本人の要望を聞きながら、暮らしが安心して出来るように支援をしている。	本人が直接希望を言う事もあったり、テレビを見ている時とか、食事をしている時等、その方の自分史を聞いたり、思いを汲むように常に心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報による生活歴やご本人との関係が深かったときの情報からこれまでの人生を理解しながら継続して生活が行えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんの心身状態を把握し、一人ひとり残存能力を活かせる場面を提供し、利用者さんがいきいきと笑顔で取り組めるように心掛けている。また、その時の様子などを記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態が変わったり、問題が発生すれば、話し合いを行っている。ご本人がよりよい暮らしができるように計画作成している。毎月のモニタリングで状況の確認をしている。	基本的には3ヶ月毎に更新し、6ヶ月毎に見直しを行っている。日々の記録や職員の情報と共に、家族や利用者の意見も合わせて検討し、現状に即した介護計画の作成を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を時間をおって細かく記録。対応したことや新しく発見したことなどを記録し職員間で情報の共有をしている。介護計画に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やそのときの家族の状況に合わせた対応を行っている。急な発生で家族が対応困難なときも、最後まで代行を行うなど柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会に属し、回覧板等で情報を共有している。ボランティアの方たちの訪問や地域での催しにも参加。ドライブなどにも出掛け楽しく暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設の医師や協力病院または家族のかかりつけ医との連携をはかる。安心して医療を受けられるように支援している。	母体施設の医師の往診や訪問看護の利用が毎週行われ、医療面での安心が提供されている。日々バイタルチェックを行い、体調や薬に関することで気になる点はメモをしておき、往診の都度医師に提出し指示をあおいでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で身体的にいつもと違った事が起こればすぐ報告し相談する。ちょっとした気づきにも看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、病院を訪問して経過を伺ったり、今後の見通しを聞き、出来るだけ早く退院出来るように病院関係者と情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期においては、ご家族に対して、医師とスタッフと話し合いを行って事業所としての対応方針について納得できるように説明をし、共有をはかりながらチームで支援していくようにしている。	入所時に重度化した際の説明を行っている。家族や利用者の意向を一番大事にして、出来る限り最後まで支援を行っている。また医療の勉強も行っている。現在重度化した利用者が居るが、家族と本人の希望で、出来る所まで世話をすることになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルをいつでも閲覧できるように掲示している。定期的な話し合いで意識付けを行っている。消防の方からも応急手当の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害についての対応マニュアルを作成し、定期的に避難訓練、消火訓練を実施し、訓練を行っている。何かあれば地域役員の協力も得られるよう体制をとっている。	利用者に抜き打ちで昼間と夜間の年2回避難訓練を実施しているが、毎年避難時間も短縮されている。また、消防署から救命救急講習の指導も受けている。台風時の土砂崩れに関しても母体から確認が行われ、今後の対応も検討されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方の尊厳を大切に、プライドを傷つけないように声掛けや対応に気をつけている。排泄または身体的情報等、ご本人に関することは、人前では表立って報告しないようプライバシーの確保に努めている。	下着の上げ下ろしのみ手伝った後は、扉を開放したままでなく扉の前で待ち、終了後に利用者にナースコールを鳴らしてもらう様にしている。後、書類の記入や報告等は事務室で行い、個別のチェックリスト等は共通の居間等に置かれていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんと話しをする中で思いを汲み取り、自分で決定出来るような声掛けを行っている。発語が不自由な方も表情を読み取りながら意思表示できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんのペースでレク活動、散歩、ドライブに出掛けています。また入浴も利用者さんのペースに合わせ行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には、利用者さんが好きそうな服を選んでいきます。汚れたりした時は、きれいな服に着替えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者さんの状態に応じて提供している。また、準備もスタッフと一緒に盛り付け等行っている。下膳などにも関わっていただいている。	利用者の咀嚼、嚥下能力に合わせた食事を提供していると共に、見た目も楽しんでもらう為、ハート型に切られた人参が食事に提供されていた。好きな物を好きなだけ食べてもらい、無理強いせず食事を見守っている。食事の量も多いが皆ほとんど残さず食べていた。力量に応じて下ごしらえや下膳等も手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分量を記録し、少ないときは本人の好むものを提供している。栄養確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、毎回口腔ケアを行って頂いている。状態にあわせ、職員が付き添って行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンにそって、トイレ誘導を行っている。失敗が出来るだけ軽減出来る様に対応している。夜間も場合によっては、ポータブルトイレを使用し、対応出来る様に支援している。	自らトイレに行く方以外は、時間を決めてトイレ誘導を行っている。個々の状態を職員がきちんと把握していて、それぞれの利用者に応じた対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しやすい方は、水分を促したり好みの物を飲んでいただいている。適度な運動を呼びかけるなど、個々のニーズにあわせ、予防に努めている。必要に応じて内服薬を使用し、改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が満足して行えるように、ゆっくり時間をとっている。また、精神的に不安定であったり、体調が優れないときには、別の日に入れるよう支援している。本人のペースで行っている。	週3回の入浴を基本としている。現在は入浴を拒否する方はほとんどいない。拒否した場合は無理強いせず臨機応変に対応している。一般浴と機械浴があるが、介護度の重い方には機械浴を利用してもらい、清潔を努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人にとっての自然なリズムを尊重し、個別の体調を理解しながら、休息を取り入れている。周りの環境を整え、不安を感じさせないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の薬の内容を把握し、飲み忘れないよう徹底し、状態変化時医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんそれぞれが、活躍できる場面で発揮でき、生きがいを感じていただけるように支援する。気分転換にドライブ等にも随時出掛け楽しく過ごせるよう援助する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援ではなく、他の事業所の協力による旅行に参加したり、地域の催しにも積極的に出掛けられるように支援する。	気候が良い時は何回かに分けて近水園の鯉に餌をやりに行っている。また利用者がドライブが好きな為、なるべく国分寺等にドライブに出掛け、時間がある時は喫茶店で珈琲を飲んでゆったりと時間を過ごしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんの希望や力に応じてお金を所持したり使えるように支援し、外出して買物等で自分で払ってもらうなど、社会性の維持に努め満足と自信をもたせることにも配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や身近な人との関係をつなぐ手段として、手紙や電話のやりとりが出来る様に支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場はスタッフとの距離も無く、いつでも身近に感じ、居心地良く過ごせること。ホールには、花を生けたり、作品を置くなど自宅に居る感覚で過ごせるようにしている。	窓が多い作りになっており、居間からテラスが見え開放感にあふれている。常に暖かい日差しが差し込み、気候が良い日は廊下に椅子を並べてひなたぼっこを楽しんでいる。事業所の至る所に季節毎に作成したちぎり絵等多くの作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が、気のおける仲間と過ごせる場所や、一人で過ごせることを好む方のスペースを作っている。椅子の配置もゆっくり過ごせるよう配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が、最も安らぎを得られる空間であるために馴染みの家具であったり、椅子、写真等を家族の協力のもとに設置し、安心して暮らせるよう配慮している。	タンスとベット以外は使い慣れた椅子や机やポールハンガーや衣装ケース等が持ち込まれており、それぞれの暮らしぶりが伺えた。さみしかった居室は家族にお願いして、家族の写真や手作りカレンダー等が飾られ、今ほどの居室も温かみを感じる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態、能力にあわせた器具の設置及び使用支援に努めている。入浴に関しては、機械浴があるが、状態、能力に応じて、一般浴も支援しながら安全な入浴支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105623		
法人名	医療法人ももたろう整形外科医院		
事業所名	ももたろうの郷ひなた苑 B棟		
所在地	岡山県岡山市北区足守709		
自己評価作成日	平成23年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370105623&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成24年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

川や緑に囲まれた自然環境の下、ゆったりと利用者さんに合わせた生活をして頂き、四季折々の行事を取り入れ外出の機会を設け社会交流を心がけている。また、地域住民に開かれた施設作りの為、町内の会議や地域の清掃に参加したり回覧板などお互いの情報を共有している。また、毎月ボランティアの方と音楽会を開き交流を設けている。勉強会においても定期的に開催しており、職員全員でより良い介護サービスを提供していると共に、医療面においても母体施設が医療法人(整形外科)で他の病院との連携によりサポートも充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念が共有できるよう見える所に貼っている。朝礼時に確認し業務に取り掛かるよう心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週に1回の買い物、又は日常的に散歩の機会を設け地域の方との挨拶を交わしている。季節になると地域の花の展示会の見学の誘いを受けるなど近隣住民とのふれあいがある。小学校の運動会や地域の行事などにも積極的に参加し交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場において認知症についての実践状態や支援について説明をしているが地域の人々に向けては確立しておらず今後の取り組みとして行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年7回、会議の場を設け事業所の報告を行うと共に皆さんからの要望や御意見を伺い、改善に努めている。また、評価結果について報告し、今後の取り組みについて報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会には地域包括支援センターの職員さんに参加して頂き取り組みについて報告しています。市町村との連絡などわからないことは、協力を得たいと思います。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所時に事業所の基本的考えを伝え、ご家族の方に理解を求めている。身体拘束に関する勉強会を行い具体例や趣旨を理解し皆で共有できる場を作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を持ち、日々のケアで気づいた点、具体例を用いて皆さんで考え共有できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見のケースはないが研修があれば、研修に参加し職員が皆で学ぶ機会を積極的に持ちたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明を行い質問があれば丁寧に対応している。また、重度化や看取りについての対応や医療連携体制などについても詳しく説明し理解を得ている。介護報酬についても、その場で書類にて説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や家族会などで意見を言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。御家族からの御意見や要望は、その都度、職員で話し合い、今後の施設の取り組みとして反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを通じて職員の意見や要望を聞き反映できるよう管理者共に相談を行っている。また、勉強会の場で、意見や要望、困った事など皆で考え反映に生かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスや疲労軽減の為、休憩室で休憩を取り気分転換を図っている。また、職員の悩みや相談に耳を傾け、今後のよりよい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においては職員の段階に応じ、できるだけ多くの職員が研修できるように計画をしている。職場内においても勉強会の資料を作成し介護技術向上を図ると共に皆で取り組めるように努めている。新人職員に対してケアの対応やかかわり方を指導		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所以外のグループホーム研修会があれば職員に研修に取り組める機会を設け事業所以外の方との交流を深めサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった時は、事前に面談させて頂き生活状態の把握に努め、必ず御本人にお会いし本人の心身状態やご意見・思いをくみ取り、職員が本人に安心感を持って頂けるよう信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時は御家族の苦労であったりサービス状況など、これまでの経緯をゆっくり伺っています。また、事前に御家族が希望される事を伺い理解し、事業所としての対応などを話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人や御家族の思いの中で、状況把握を行い信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげていけるようにしています。場合によっては他の事業所のサービスにつなげる対応もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で本人の思いや不安に寄り添いながら互いに支えあい人生の先輩として尊重し、また教えて頂きながら良い関係作りに努めています。また、暮らしの中で出来る事を行いながら穏やかな日常生活が送れるように声をかけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の訪問時には日常の様子や健康面などの報告をしたり、御家族との時間を大切にして頂くように配慮している。また、月の報告書で生活の中での変化や気づいた点を細かく伝えれるよう情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の要望などで生まれ育った家に行ったり、友達の方の訪問を受けたりと御本人との関係が継続できるよう支援している。また、外出が好きな方など、出きる限り、その方の生活習慣を大切にし支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが発生した時は、必要に応じ職員が仲介しお互いが納得できるよう十分話を傾聴し受け止め安心して生活できるようにしている。また、原因や要素を把握、分析し今後の事前の防止に努め利用者さん同士の関係が円滑になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、支援状況・これまでの生活の様子などの情報提供書を渡している。また、移られた場所に職員が訪ねて行き、新しい生活の場においても不安な生活がないよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり、日々の生活の中での暮らしが満足できているかを声掛けや思い・希望を伺い、意志疎通の困難な方には御家族から情報を得て、どのような暮らしを望んでいるのかを把握できるようにしている。状態の変化が見られれば随時、御家族に報告し話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族に許可を得ながら生活歴やご本人との関係のある方からの情報を頂き、これまで過ごされてきた人生を理解し御本人の特徴を活かしたサービス提供に繋げていくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんの残存能力を活かす場を提供し、職員がさりげなく援助したり声掛けを行い、心から感謝の意を伝え利用者さんが生き生きと笑顔で取り組めるよう心がけている。随時、心身状態を確認し記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で利用者さんの思いや要望を伺いながら状態に合わせてたり御家族の要望も取り入れ現状を伝え職員皆でカンファレンスを行っている。個別に職員担当を決めモニタリングを実施しケアに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を時間ごとに細かく記録し、その時の接し方や新しく発見した事などを記録している。また、職員全員が情報を共有化し今後の介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決められた業務の流れに限らず不測の事態や御家族に関する状況に合わせた柔軟な対応が出来るよう整えている。御家族が遠くに住まれていて緊急な場合でも施設に泊まれるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方をお招きし音楽を聞かせてもらい交流を図ったり散髪や歯科の往診の充実化及び民生委員さんや町内会長さん・地域方核支援センターの職員さんと年7回の会議を開催し情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設は母体施設や協力病院、又は御家族のかかりつけの病院と連携を図っている。また、利用者さんの処置履歴を尊重しながら、御本人に副った医療が安心してできる体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員内の看護師が定期的に訪問し個々の利用者の状態や変化を把握し記録を行うと共に必要に応じ受診して治療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんが入院した時は日々の状態変化を的確に伝達し出来るだけ早期の退院が出来るよう相談にのっている。長期入院の場合は訪問し伺いながら状況把握し、退院後の日常生活が円滑に出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり終末期においては御家族に対し医師と職員と十分話し合いを行い事業所としての対応や方針について納得の行く説明をし共有を図り連携して支援をしていくようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや緊急連絡網を作成し皆で共有できると共に看護師など初期対応についての指導を受け職員全員が対応出来る体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し避難訓練や消火器の使い方の指導を受け職員全員が身につけられるように訓練を行っている。また、運営推進会議で訓練の結果を報告すると共に地域の協力も得られるように体制をとっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの人格を尊重した声掛けや気持ちを大切にするケアを心がけている。本人にとって恥ずかしい事や気にしている事など、人前に触れないよう気を配り、さりげない声掛けを行い自尊心を傷つけないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志疎通が困難な利用者さんにおいては表情や態度を読み取り決められた事を押し付けるような事はせず御本人の意志で決められるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のニーズや状況に沿って生活を尊重し、ドライブや買い物、又は外食など御本人の希望に沿って個別対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんの好きな服を選んでもらい、その人らしい着こなしを楽しんで頂けるように支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関わる時は利用者さんと一緒に配膳や盛り付け・片付け等を行い出来る楽しみを支援し役割の中で楽しく食事が出来るような雰囲気作りを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事時やおやつ時の水分摂取量を記録し少ない時は代替で本人の好みの物など栄養が確保できるよう支援している。本人が望まれた時は、いつでも水分が取れるよう支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回口腔ケアをして頂く中で、本人の力量に合わせたブラシなどで行っている。また、口腔ケアを拒否される利用者さんに対しては時間をおき、落ち着いた所で再び声掛けを行い実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンを把握し定時間になるとトイレ誘導を試み失敗が出来る限り軽減又は改善できるよう対応している。また、夜間は希望に副ってポータブルトイレを設置し早く対応が出来、失敗を防ぐよう支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しやすい方には、好みのジュースやヨーグルトなどの摂取を促したり、また適度な運動の声掛けを行い個々のニーズに合わせた予防に努めている。必要に応じ内服薬も使用し改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に楽しみが持てるように、ゆっくりの時間を取っている。また、精神的に不安定であったり、体調がすぐれない時は、御本人に意向を聞き日を改めて入浴を行い御本人のペースを大切にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを尊重し体調を理解しながら、その方に合った休息を取り入れ周りの環境に配慮し不安を感じさせないよう安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容や効能を把握し飲み忘れなど無いよう皆でチェック徹底し、状況の変化等に関する情報を医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者さんが活躍出来る場面を提供し、その事で発揮でき生きがいを感じられるよう支援を行っている。また、気分転換に外出して食べたりドライブに出掛け、楽しく過ごせるように援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の旅行に御家族にも参加して頂き利用者さんとの楽しい時間を過ごして頂いたり、また地域の催しにも積極的に出かけられるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんの希望に応じてお金を所有したり使えるように支援し外出して食事や買い物など自分で払ってもらうなど、お金を使う事の楽しさと満足を持たせることにも配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や身近な人との関係をつなぐ手段として電話や手紙などのやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と利用者さんの共有の場として距離を感じさせず身近に感じ居心地良く過ごせ、その方が今まで生活して来られた場の延長となるような雰囲気の間を作っている。御自分で作ったり気に入った作品を掲示するなど、自宅に居るような感覚で過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のおける仲間と共有できる場所や一人で過ごせる事を好む方の場所を作り安心して過ごせるようにしている。ソファや食卓の椅子の配置など個人個人が好む場所で、ゆったり過ごして頂けるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんが最も安らぎの場所である居室には馴染みの家具や椅子、置き物、写真など御家族の協力の下に設置し利用者さんが安心して暮らせるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態や能力に合わせた家具などの設置、使用する事の支援に努めている。入浴に関しては機械浴の設備があるが、状態や個々の能力に合わせた一般浴も支援しながら安全に能力に合わせた支援方法をとってみる。		